可笑記

へ13
74
1-5

曽
74
1

イ 5
74
1

13
74
5

15

門 5 / 74 / 1
號 巻

ヘ 13
74
巻 1

異序

叢鶴異性を兼ねて、毒蛇くうんずれば、あさ
ぎうめくこゑ、むかしもきうりのごとし。玉猿とうぐるる歌をれい。讒言乃嬙
ゆゑ、玉猿とうぐるる歌をれい。讒言乃嬙
とこしなへしらびたくうに紀世の波てしらぐ。二龍
波うにようにまくるふまうもぐら。番紙波入
に孔雀。猿猴が月代重こそ。のこがゆ。海士のすさ
ひ。猿猴が月代重こそ。のこが懸代波てしらぐ。海
こに傷鶴乃蕊ホ世。なのくせん書みきり。
かうゆゑ此書叢ちなづまくく可祭紀ゆ
きうゆ

可笑記巻第一

○むかしさかの人乃いつゝぶ永源つらの弓ゝ巳年ぶ未ゝ出ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ清ゝ乃星あらゝれゝゝゝれ人あやゝゝみ
れゝゝ稚乃人ぬゝいゝゝ乃ゝ乃ゝ比名誉乃博士ゝ勧文を
ゝゝゝかゝゝ稚ゝ新ゝ我朝文武乃道あつゝゝゝくす
ゝ記ゝゝの星なゝゝゝ清ゝ法ゝゝ久ゝゝゝゝ
今ゝ後古へゝ星清ゝ人ゝ侍乃家ゝ次第に衰ゝてゝ
累代の家法衰ゝゝゝ
無義無学純ゝゝて。利義利ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]亀ふめて。[illegible]。綱さ付子を[illegible]て。[illegible]
出ぬと国ひあげんぞ乃恩賞よりもあらぬ[illegible]
かき[illegible]ふ[illegible]ふ国くに[illegible]に教向して[illegible]道乃[illegible]
梅うまひぞうくさんを尊そ。禅道[illegible]ぬ[illegible]
仲[illegible]やしこ賞まひぞ不意[illegible]不[illegible]
ぞくふ時節[illegible]ひ[illegible]邪[illegible]ふ旨ぞんぞ[illegible]
裏乃ぞうくん人のこ[illegible]昌[illegible]ぞ[illegible]
ぞく伝へ[illegible]れ[illegible]
痛[illegible]ぞ乃あやまちられちがひをとらず此意書[illegible]
[illegible]く家せぞ[illegible]ら[illegible]
他人の人ぞ[illegible]法[illegible]乃[illegible]
[illegible]の[illegible]

金[illegible]ぞ[illegible]
あ[illegible]去[illegible]
[illegible]あり[illegible]
但不意の[illegible]
[illegible]

○むかしさ[illegible]人乃[illegible]殼梁傳[illegible]物乃[illegible]孝乃子に
は親乃[illegible]事ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

父母をはじめ乃親族あざけるまでに痛きこころひ絶ふ事なし。
生れつきたる乃あつ汗えしひ拭ひ涙ひ求めるを書とは
なるべ。ただ不に接汗ぐーてをたに教訓あるべ。さたのらば何
乃親族嘲あざけるんや。親族あざけるまで形くい拭ひ涙ちやう
ちあく死罪法刑もあるまじ。但法度をもて不道ひ不義理
不仁義ぞうくく深く義ひ立ひとれ行こなひく。
其親族嘲汗やめむときまふをまよ云やむまじ
たうく紙ーのてやめんふうとは涙ちやう拭ひ
罪法刑乃絶つるまく。よく親族あざけるたけん
あるべ。だとへば濁水乃ますまあるに汗傷ふ堪汗ぬ
ひとめんとするぶくく無理ふせたもあんもまるなるべ。
かくこと紙ーちやうまきあるに絶なるまでもやうう

なるべ。たとへば濁水乃ますまあるに汗傷ふ堪汗ぬ
くべ。傷つくこころにくいかるふまうざれこの親族嘲汗
せたもむまれ悦とふ。ふ。慈悲あるく義理ぬたく
く欲うすく物ーと味わうて。ふ。ふ。ふ。ふ。
におろーまどもに教訓あるべ。

○世ーうーたに人の言ふ。ふ。ふ。人ーに後悔すべ。こころあり。
母存命乃うちふ不孝あるべ。ふ。ふ。ふ。ふ。
まくべ紙ーに対ふるまと思ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
あくくゆづーぶう紙時義あらばーて。ふ。ふ。ふ。ふ。
し。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
をーと碑牲ーて。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
欲ーめでーふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

恋人乃熱心ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

まうとしそふ。言て同さ雑ぶ此二人乃女他人の書てこの
しさ紀新ふちさう伊かて。むつまさう女ぶ今又さぶ書
ゆ枕く書ぶ又他人まん伊かまの伊かてもみづ又加来我
ふとて伊てさ紀ゆ。ひまども絵ゆびぶ新伊ゆこ
婦て女い呂今まで書と形てもみ他人まみどうう人へ
からんゆ語ゆとうの見ゆつく思ふよ。書代乃ま伊う
拾て敵方人かうさん内通ゆう人いみこまゆも拾て。
他乃ま人こうさん内通ゆへ。ま者におのてん絵ゆ通
世てさ所人乃こうゆ。常にゆてこ和むけおなてさ
あよらあり。道ゆあ和人業程つ紀人。難勢ゆ和人
学文ず紀ゆ所人業あう人武功乃人孝ゆうう人今別
あう人醫道あう人ゆ亜ゆう人ゆ。なしらいやうう人。

ありゆ乃ひがたう人亀好の人。乃ち面伊乃む人。数寄
とすく人。嬉氣ゆ和人。喧嘩ゆ紀乃人。数寄
ま人。歌ゆ和人。病ゆう人。ゆ和ゆ乃人。
むうさ所人乃こうゆ。塗眞乃住人。名川澄之。清と言
あう時乃合戦ゆ先ゆけ伊てこ。ゆ伊一ゆ和ゆこうと流
し。高名ゆ澄まうく。恐賞にゆ。ゆ乃あう伊一番
先ゆけ伊ゆ。ゆ乃名ゆ川ゆ対ゆ。てこうゆ澄之乃
ゆうこ所人乃こうゆ人ゆ和ゆく。富ゆ伊和ゆひ拾ゆ所
ゆ人ゆ。ゆ和ゆ伊ゆひ拾ゆ。ゆ和ゆ和ゆまゆひ。
和計伊て拾ひあうゆ。ゆ和ゆ和ゆ。ゆ和ゆ。富ゆう人ゆ。
十ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
のゆく。ゆ。富ゆう人ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

聞くかなまよまう。掛冠豊に敢やう乃行支ゑん工夫思い業。給く
あうぐ。先ん君智乃業ふが為様るに。一仏ふ乱ゆ思ひへしう所
んさしけりとでけうくぞ年十めも道よ邪ちんと学文
ちぐーさあうぐかさ乃ちくく乃学ちんしうべーそう細いぞ五
六業ちんまえすに教まで学文所ちんふ刑ナめ六きせん
所他ありぞうしぐ四書ゼ書ゼ二注周易ゆ所をすあー所
儀乃書籍所もあうまり懈ゆちべうゆさわうんふおおてい。
たうの天命にうく学ちて貧ちに依ちるうき世乃人ち蓋
あがめしゆ業ちう、ぜうぐー。其上ゆ対貧なうる業何ゆへ
かくゆと悟ちまうう学ん紙熱ゆーむまー熱ゆしるれくい。
冨貴繁耀乃愚人ちらいまり形うべーげふくいちと富
貴業耀ありとも欲念ちまぐ捨ゆ乃思ひよたう

され生ぐ一生うれ悲ちく後ちーさわうんゆ何の楽ちこわ所ちる
先ぐ智ちんにれめうくいゆ世乃人接ちるあり接ちるひ
どうぐでいかあうぐ冨貴ちうべー。誠友垂方ちを求り楽
貴ちる其中ゆありぞ大聖孔子乃ゆ教へありうう
むう唐ゆ五柳先生といつる人ゆ居ーて安所道ーぐう所
事ありてごうぐうう世ゆおく住ー時白鷗といつる所ゆう
て飼ま所ゆ秋乃比ゆ照ちふ月ちうく打ああてゆみーへ乃
住ゆ所ー山の端乃ちう紀さぐと形ちうーく塩ゆりさ心細
あるうーうぐ立ちくかご乃所ゆひう紀ゆ所ゆられちやうちこう。
さ所人ちれぐぞのがんよ思ひわりぞてゆられちたうちう今れ
ぞ乃思よむぐ紀めんくいぐう思ひわうひへさ牛馬犬鶏の

昔さうゐんのうゐんのたまふ道ふ道ふ所にまいかる
らひろまるこのうゐんけいえうあべしとまをすうゐんの
ぐまうぶ神ぶ仏ぶ神ぬ道ぬ所なりうぶしたる人ハ民孫ぬ
えうびとまをすべしとまを
むうまを人乃ゐうゐん半ハんぐらけて命わうぬまをくも
まをぬぐまあひたハんぐらあうく身わうぬやくをす
ぬ公うひあひ鶏ハんぐらうてけづあまをゆへまをくまを
すぬぐけあふ嫉まごとくまを義も義ぬ義ぬ慢ぬ慢ぬ
うの義ぬよたう物ぬ慢して他ぬまをくまをうまを
ぬ法をかまうぬ喧嘩ハ論といふ。命ぬまをうの義生同
前ふあさ海くくして学ぶ道ぬ法ハ位
あうの人ぬ身ぬ人ぬ金貴ぬ人ぬ物ぬまうの人ぬ頭

すうの人ぬまう強ぬ人ぬ利ハ乃人ぬ剛ぬうの人
むうまを人乃ゐうゐん世間の人く我をそけひくい色ゐい
や悔ぬうのれいうんや他人ふかあてあるぐうわふまを
う物ぬうの風ハ金ふいちのまをぬぐも毎ぬ怪ぬうずて天下ぬ
貴ぬとまを物ぬいちのまをぬぐも衣服ぬあうく京ぬ乃うの
やをあぬ金いうの物ぬ物ぬ仏経ぬ経ぬ仏経ぬ伝ぬ乃書ぬまを
してを道のまをけをとなう潔ハまをぬぐも諸乃をを乃た
すけうの行ハ長ぬ物ぬまを。貴ぬうびぬ中ぬ屋ぬうてうまをうぬ
ハ貴ぬうやをハまを。貴ぬうびぬ身ぬうくまをうぬ貴ぬ
を白ぬ物ぬうを所民ぬうをぬまをぬまをぬ肥ぬ物ぬうう
人ぬいうけと癒ぬうをうくまを乳ぬうをうぬまをぬ
をあて、癒ぬうをうんと食物ぬまをあぬうぬまをぬ

す。鬱血病毒にて、痛病生じ、身命あやうし。かゝるべし。ゆえ痩せ
ほそらしまれ人。ゆえに肥えたるをたく。乳ひらともかゆふう。
ちゝ長ちゝめて肥ゆるとんやとうと食物ほうくさんみて。
鼻のびのびとちゝばゆかるべし。熱毒病みづらし。痛をなし
身命あやううるべし。ざんれい業師必業れ生せ者婆扇鶴
ゆ業まして業病あるべ人豊姓もちゝとゝいてゝ鶴病えんゝ
かゝべ毒乃黒白皆いとう長鶴ゆ人くのごゝ家におゝき
ゝれ毒ゝ病毒病乳利数乃人ありゝ男いゝゆもせいゝちくゝ
ゆゆゝくんゝてもゝゝ。我身ゝゝゝゝゝゝ痛ゝ業
事せん也おゝゝ乃毒食ゝゝゝゝ思業ゝゝゝ我身
ゝてかくゝゝゝゝ。ゝゝゝゝにおゝて。せいゝゝゝゝゝゝ
べゝさゝゝゝん女房とむゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝお

もゝゝ形ゝ兵ゝ乃言ゝゝゝと尋ゝゝゝゝゝゝ六尺ゝゝゝゝゝゝ
乃毒女ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あげがゆがりあまてぱひろく。えもこへお耳うすく。眼ほそく。強
あぐくやなとおとぐひ。婚むとあてぱ。尺ゆさの女ありさあれど。
むこぐりぱあいるるとあらぐひ。行くもてあるひしるるやさ
ぱで生れつあるるぱ。ちめて。彩ひ。物時ハぱひ。獨乃とのぐら
ぱをあるるぱ。ちんや。葉づま乃ちもちまぐひ。富貴ぱ彩ひ
求ちた。金ちんよかるよまぐ。ちうぱ。あて。求るはるれちず
仁義。礼ぱ。智ぱ。命あやううべーぱ。ぱへさ事
○苦さぱ人乃ちるぱ。合戦よ。働べきちるり乃日ちう。ちる日ちる面
ちる。報恩。恥ぱ。ちぱ。ちと。ちう。時ぱ。敵討ぱん
がけべー
○むーさぱ人乃ちるぱ。ちも世中乃ちるぱ。ちう。ぱ思へだ。ぱ。ぱの
ちぱ。ちをあさんちちて。ちれちくして。世と。通ちづるぱ

かるに。あちるとかて。後乃女ぱ。彩ひ。ぐちんるるんちぱ。人ぱ。ちよ。面
世ぱ。彩ちんや。紀ぱ。彩ぱ。面。あちちも。後乃。あちうるぱ。ちを。わ
ぱ。ぐ。ぱに。ちち。命。後。ぱんさ。ちぱ。ちさ人の。ちぱ。ぱう。彩て。ちぱ
ちるちんぐ。ちさ人乃。やあれ。ハ。彩ちを。ちう。爆ぐ。て。く。彩
に。ちぐ。蠱ぱ。ちたぱて。億あべー。ぱ。ぱ。面。あぐ。ちを。ぱ。ぱ。ぱ。
あさ。まちて。ぱ。年月。ぱ。ちぐ。ぱ。ぱ。ぱ

今待ちしかひなくてやわれ身乃ちあ[illegible]
どやうてあの道来あく命乃程おりうれつてきけよし
ぞうそぞくせんのうれ杜の下出招てうあれよせ後乃ちれと
形へべしさはうあうしぞ我をみ乃うれあれどぞ式身いう
なうお葉乃つとうれゆやいまぞ京生のえんけいうびんのこ
心めれうり切やおくかくおるどうびうれざうべこうる伺
乃縁あくんぞ拙のこ[illegible]くしゆいうれ我どやとのきとか
ずの嵐ぞひうしかくいべ儀人きこ熟まうゆけまうんやと
ちうべしさあうべ我とうく熟して一紹一夕風伺海へ
さいうはう乃中にあうきくこちあざうゆ日はみうへうけ
一日に一人二人のこあうんやわさくさ是に神人田山ゆいて
ことあの音くゆ山しけ安常よりうりうれゆけあうべ

かうけ老うあうこけうけ病あうけ安病あのけうこけ
き男女偽倍うけうけ思ひうきあけ人乃ゆ紹あり
○母うけ去人乃うあうけ大願孔ゆ乃教よけ父母伺指けうう人ハ
拙山願乃うあ斗にあくへ拙貝伺愛ひてあうくけうけ
こうあ細ハ我いうけうけけ父母ホ立角ううけ目ひと重
て住へぞ安ゆ浮伺いうけうけよけうけけ父母ホ
身余にいれうけうけ乃おあんもうけうけゆ用乃
あんきおかけうれけとけ物ホうけ乃こけうけ父母の我
をかうけうけおかけうけんえ形けやけ斗あうけけうけめと
父母れんけうかうけうけけけけけけけけけけけけけけけ
やうけけけ父母乃神けうけ川て我神とけけけけけけけけけけけけけけけ

まづきれとも指よにうべし。大名ハ小名乃まゝ。ハ
ぢぬとうなひ。ハ分乃大分乃まゝ。ハをれハ分をう
志ろ。武ハ侍ハ町人とまゝ。町人ハ侍ハまゝ。ハ
をまゝ稱ハ右ハ乃まゝ。ハかゝ別ハ人へ

○むゝあゝ人乃ゝゝ。一日やぶ袖あゝ紙ひさあゝ
うゞれと乃ゝ酒よいぬゝ大袋乃中へ入ゝ新ふゝれゞ
乃まゝ人よゝゝゝゝゝ乃人ありて笠ゝゝ乃人酒すゝ
ひかゝにおゝハれゝくゝ角をれゝをみゝす小脇乃ゝ
ゝよに新ゝ乃人めゝゝおゝにあゝゝた乃方ゝをおゝ
ゝゝゝよくんせゝれてゝてに視ハゝゝんとゝゝ
ゞあゝゝゝゝいるの脇乃ゝてゝるゝ。我まゝ人なゝ笠ゝゝに
對て我ゝゝ乃ゝに我ゝゝ乃人みゝゝ

對て脇ゝゝうべし。我たゝゝれてゝゝれゝゝく我
右乃人みゝゝゝゝゝ利べし。我ゝゝゝたゝゝゝく脇のゝゝ
ゝくに我まゝ人なゝ人みゝゝゝゝゝ。前金ゝゝ脇ゝゝ
ゝゝゝゝ思ひすゝくゝゝ海をゝゝゝく思ひ出
ゝゝゝゝ。てゝゝゝゝ乃ゝゝ色ゝうべ

○むゝあゝ人乃ゝゝ。我一ゝせゝゝゝ。河思ひをゝゝゝ人
をゝ乃ゝゝ海ハゝゝゝのゝハゝゝゝゝ。ゝゝんゝゝ
我山ゝゝ話乃湿木ゝ人ゝ我ゝゝ
ゝんべ指ゝ角ふゝ我ゝすゝゝゝに海ゝゝゝ角をゝゝ畫ハ人へゝ
思ゝゝ乃山近を神ゝ我ゝ宝ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
遠ゝ去のゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝてなゝ我ゝ我ゝ。玉づゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆてゆくゝ枯ぬべきを附いとゝ家ふゆ人の細布のむしのあく
ドゝさとゝこゝこずあゝ世界都むタぐれいとゝいれゝさゝゝ
ゝゝあゝんやとゝやとゝれんのひまゝ世界あゝこゝ西にあゝ松ぐ
乃花宮めぬ枯ゝゝ風乃寿戸ゝくゝゝづゝゝ人ゝ西ゝと
世ゝ稀打ゝゝゝだまゝぬ世界けとがゝてひゝくきんゝゝの
ゝ花ゝゝ秋ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くせ給へ

○昔のゝ人乃ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

諸無よりわらへ入給ふ　ふるき歌老乃多別名学給りつゝ
乃ゝ紀之言に引入申べきてもあんまうこゝひわらんやいこん
やはり豫乃つゝ紀之言ふ　やまをのめんくらんなりべし
世ゝ人のいつゝたゝしが　嬢歌乃乃ゝ　おてゝ清しこゝ和を
ゝ　言よりも弱神なやおりゝ　表ゝ生ゝ方紀ゝ　山嶽ゝいゝ
歌の女乃義ゝ　ゝて命とゝうゝずゝ　一角ゝ出る仙人
女しん　也通力自在　玉紀ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
こゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝて　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
いつゝ女房に　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
人異神ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

多し

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

にけらく。當ようつめぐたらねてあるくるわりぞうぞうぞうん當
初後乃枝といふ微こそこそくく歯といふ抱いつ〻ぞりのうぞ
枝こよかぞいぐ。がらぞ抱とそこかと磯又舌ふい歯いうき
抱ようり人よやうりうりてぞ沖虫ぞるとものぞうかと
に人のぞ千ぬもあうらねいぐ歯ハ抱うぐぞうぞけおつ道
どうを舌いこうこう人一鍋ういうしけ抱るあり更ぞく
こを抱いぞそ鍋こうぐしく剛よりて鉄石山岩とも毎こ
こげ〻ぞ廣こいるせども薪なこぐぞかぐ滅〻やこくこうこう
にあふ時こうこくやこうこうこうぞ水しいふ抱いぞこ勢やてこうぞぞいぞ
ふこうこく紙一寸ぞぞもつて毎ごぞ道どもこぐてやこく。
又鑿乃も 籠ぞもうこくこぞ抱せどもこうこう石ありこうぐども
こうこんこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

大山ぞあうこ鑿ぞんこうこうを打ぐこうぐこうぞるんをあうん絡
ハ悪ぞ梅こく義理つこく老こうこぞ敬ぐぞぞうこて。
回年ぞこうこうこく敬あこくぐんぐんぐんぐんて情あこく剛こう
んこうあかこうぐぞこうこうを廣こいうぞ沖ぞ抱ぞぐぞぐぞこうこう
人あひぐぞてこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
○昔こうぞ人乃こうぞ人こく岩ぞ合碁ぞいこうこうこうこうこうこうこうこう
ぐれこく碁こうぞぞこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
碁こうこの人碁ぞこうこう打こうこう絡ぞこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこう恨こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

はを鱗さくしぶ兵衛にらぶくすきて鱧と云るは法師
ずぶがもく聖人乃相ぶぷんらにあらざれどこうけどらを
きうしぶがん鱗とまらうしぶ食こもれども味はしぶとばか
與ん物ものるかにんはらうべ
○世うう人乃ちうぶらぶうこはくさうは書はこうに猪食乃
辛こうれるもんどこもぶいつうはばうかしいは奥こそあく
乃和をうはしておうれうるはぶ鱧ばらくを前
うはれ人乃はあたどへ出されうるのぶ鱧ばらくを前
をぶうして拵んうぶはやく書はうは見はんつうて出義世
と伺うう。鱗こうしう。刺あう味噌おんはくまでも云
出こんこれ乃は鱗はまく焼んるうしぶは生にはりはりてはや
くをうは鱗はまれどぶうは人大牙乃はあはく

をぶうはれ下ぶはやしき町人だうをも鱗はしうはんてい
めるやぶはおうれはめすれうは鱗ばをはうれはは法師はう。
うはうはかくはあうはしうは鱗
はうう人乃ちうは下鱧乃潤ぶ。若鱗はをうはえはうく
うはれ結て思へば。鱗なうはれはのるはしをは皆うはえはうべ。
鱗馬乃人はうはうはう。面曲はうはかはしぶん
ぶはうして。出はうはすうぶうはうはえはう。又かは乃間はうはう
かはうはれ人はあれはうはうはして。荷屋間はは。鱗乃たはうはは
はうぶうはうはえは也又和中乃はうはは膳はうはくはやうは拍
はうん。はうはうはえはうはは。はうはうはうはうはえはう法
又書乃はうぶ素はうはうはうはは拍はうはうはは。はうはえはう
鱗はまはぶ白はうはうはうはえは法又ぐはんうは鱗人は西はは

ごとりえんせいさうやくたうせいのこざうしきごとりえん
うせうしわれまうさんあり。こたちこづゝしに大ゝうしいきびし。繁
生涯妻にて無子なれば生涯こうしんぢうんきやうはあつゝうあつ
人乃ぢうにたうもわるずに年貴のひづゝぢんさやうかなし。
嘆けうだう新人のいたるいやさよあれやあさんの家の
を尊とするわれんしうされべてて立ぬまつのしに大ゝ
るひきびに貴生涯妻にはさうしびにきうぬ揺な
旅どもんの中にに旅拘泥ゝうあうしうして無話
利にあるべしたれば皆人乃不審よいで
うんれうしに拘ゝうしいゝうやあんべきふと驚ゝ
回嘲るあうれゝふうれ天遠ゝうてんじべ
天行ゝうさまふと公皆人乃不審にりしうまで天

道乃拘ゝうやわれ凡夢ゝうゝうのりぬぢよく嘲ゝうふ
言て回ゝにうゝく天のゝ面ふうゝうにやゝうゝ
は惜ゝくゝうせゝうんぢん先ん春夜秋ゝ乃ゝ春ゝ
天ゝにはゝひゝにぢとして今ゝにやまゝらやかゝにぢへう
前生をゝうんにふよゝぢゝ拘ふうへうけまた春
にゝんぢ拘ゝ学乃家しきゝを乃どゝやゝにゝ旅ゝうゝ
たくゝに学ゝぢれあゝ春花ひゝにて百ふ乃ゝ春ゝん
ゝうゝさわれぢゝ人乃かゝにゝにゝゝゝにゝゝゝ

月乃さえてすゞしう風さうらうとおとなる新蟬の音風に
さゝぐ草むしの花と爆に成て秋を鳴く
夕こゝろをなぐさめ何ぬ物をこゝろぐるまぶくしわつくるを
繁みから撫ぶくわ乃数くしられく書白樹ふ野ゝ山ゝ行
法華にゝつて方民をゝ法ゝ行ゝ書ゝを回ゝ義ゝ夜ゝ秋
夜風ゝ新ゝ雲ゝ月ゝ星ゝ晨ゝ明ゝ天ゝ乃ゝ文ゝ章ゝ
ゝれゝ吉ゝ化ゝ寺ゝ祐ゝ法ゝ
山ゝ寺ゝ春ゝを ゝ
ゝ

五月蟬琴逆表秋

一義為時天下秋

俗乃ゝ化世ゝ乃ゝ祐ゝ五月ゝ雨ゝ
はゝ表ゝ表ゝ秋ゝ乃ゝ袖ゝ
鈴ゝ乃ゝ何ゝ天ゝ法ゝ時ゝ

ゝてゝ寺ゝ乃ゝ
ゝ
ゝ

我身ばかりの如くにて世をすぎ名をあらはすのみ乃ふうりゆうずやと。
ゆきぶべ又皆人乃こゝろやうにぞ有べきこゝをこゝてあるべきなん
て孝行乃ためにあらんぞ。孝行をしてあるべきなん
るれば。かるがゆへに病おもり。病じやうに侍百姓所人ま
でもこゝろ安くこゝろのまゝなるべし。うれしき事
衰微破滅うたがひなしこゝを思ふ衰微破滅をしらば父母乃
魂をいたましうやうやうこゝろ病ゆやうれば命をみじか
命をみじかうすれば父母に先立て孝行をなさゞるなり。
れ死する歎乃うへよ。結句父母乃なげきとなる。是ほど
不孝乃いたりなり。是生涯をれば病なく長
生乃道をこゝろをしるべし。本家をよく学文なさゞるべき
忠功なつゝめ。百姓のよく農業なさゞるべき。

細工なさゞるべき。商人のよく商業なさゞるべき。右かくのごとく
そなはるこゝの法なれば。今世時に富貴栄耀なるべし。
富貴栄耀なれば父母に孝行をなし。
親族を他人まで大切にすべし。他人まで大切にすべ
やうく楽しくなるべし。死して父母に孝行なべ。
しかれども乃家のこゝろ。仏乃教乃会法なり
かゝるべ。是ほど仏業繁盛なる。
にあらずまでもなるべし。
こゝ後ハ孝行をいたしなるべ。
皆こゝろ人乃こゝろ。ハ漢書なり。
大道ハ儒乃こゝろ書なり。小道ハ儒乃こゝろ書なり。
孔子乃こゝろ。孟子乃こゝろ。

新しかるに鎌倉殿うち給ひしかつを失ひぶりおこなはるる。大盜賊の國家をかすめとること、たとへば烏の大盜人をつかふ僕しもべのごとし。仕ふる輩天名に名をかくし業を忘れかこれをつとめ、うかれたるこころ佳にのぞみ業花をいかにもとこそ。はかなきを人とこそいひもすべくの者共なれ。役人あるべきさま、兎人をれの強よりも惡しかりけるうらうらの者のうちたりうらぐやし思ふ。もの祈り歌んはたちさるきまうに。こそ八幡様のはしらくこと。てひさ祇金殿業績業の地頭むさかり集うかるふかるこの金殿ひいてこの殺まる嫌住玉法家のうちひろく侍百姓所

人をあまたまてをもひきうしなひ。怨速情相ひく殺屋に國人をたかく道路より殺傷人をぞ。ふる國家地のわざこそ。ふるまひく。國家ふかしに惡滅しまて山紀孫まい滅たること。ひかり。國家滅亡乃源ひ。ひとびねまいが乃老。おのおのの役人。ふるのごとく源ふ。道乃役ありぶわれどそうくれ。乃老乃老おのおのの役人ハ國家頭天下をみざこんとす。新稼穡及遊乃大惡人ふ同事ふ。ひやうあうう遊。いてひくくやと業ずるに國家治紀乃根本いたくまこのこと。惡にしるべいんとこそ。伝義を毎ふり侍ひく。善乃役ふ。ひくくそれくこ乃役ふ古ひうう祇ううぷ。ぬをんをくぷにおぬをうをんあるべうに。一人ふ殺す。やを祇いぷをうれひくくふ乃紀。

○学こ一日蓮清土乃中。爾こふ乃どんそと人よりあひまるひ。
日蓮こふ乃回いさうやそ奇妙世義幻ぎんこいくさしに教を
ひ来教義形勢乃ふこ一ひ法こふ乃ぐ八雄乃極曲法い
たこ紀滅仏像脱法へぐ一金紀いこまこ女間の業おこ
おこ後一ぬ法蓮花経と説こ一ち法出家乃こけこいぐつ
ここをこ那法すこめかこだけこいこんにそれ我こふぎん
んに阿弥十方三世仏弥字ふ一切法業障滅ふ八万法聖教。
皆悪阿弥陀ふ法すこ学すこれだ。紀乃ぎうこめにいぐ戒こうて
業一こ紀ぐ戒乃こうこあ法倫盗乃二戒にぐこ紀乃こぐあを
こ紀なうむこ藏ふりぐこ紀日蓮こふ乃二川乃戒紀破て
紀こ紀紀こけんや法乃こつ紀こ仏ここ乃ぐぶめここぶ
紀ぐんつこ牛日蓮こふ乃生仏おここ乃ここあぐ契こ。

日蓮こふこ紀こ紀こ紀こ

おもて、[illegible]乃女房を打て、おびくのちらして、あ[illegible]
にして、ち[illegible]支[illegible]報の。[illegible]御罰のがれ[illegible]。[illegible]ふ[illegible]を
ひろ[illegible]。天下に[illegible]乃[illegible]
天[illegible]乃[illegible]ふ[illegible]。盗[illegible]
洗[illegible]職[illegible]。[illegible]
を[illegible]。[illegible]
[illegible]。梅乃一字[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

無論なんのことはなかりけれどそれはつくりあげられてお
乃ゝんどもはなくなりぬ。さて貴和義乃乃具とともめさこゝに取れ
場ふその和さんぺ入用乃とこれるを作りて。吸梅とう成ハに
ふることるまのどき事ひとをぺ入よりおりもそんられてめさ
わとつまらぬ和ぬ。そこそこるひて場ぶ形ひとしむ。さ
種に墨潤ひたりけふ付とやておやの乃ゆづり乃金和多
くどもてぶまぺけふまりど紀るにまめさけるひようるふた
とんぶ人まていふ屋うまぺ。さてをおるさハ野りの上ほどん
るまの新ぺ自持うる。ひはぶ〜ふんぺきれいよ海〜ぺの産
いふうう和ぶ紀。色わう角あれと。種にあてかめくわ
ちは言とんの場ぶるぺう海くの野野てふまひ
用ん行ん種山教ぶ野ぶに和ぶ紀ハ遠紀とけう

種ぶくぶまふひうくして。熱ぶ。ひさて廻ぺにあ
ぶう紀ハて皆まれくぶ利ぶはもくぺのんぶす
うなまて。種山治けきてうきふ種まうりぶ紀ハ利
てまうひわざけうく彼ふうけめぶす紀ぶなくなと
ふうりびさ。揚蔓まるのめうう尺八和祿。我ありさ。我
すう種乃亂ふ種紀ハくかぶりかめつ種ハ。鼻紀ぺうあ
てかうまんうぺれ乃乃やうに牛紀ふうたぶ利蔓ぶ立た
紀ぺゆはぺうたまぶうふまぺ。びふ祿ふ吉でれりく吉
後家神ふうしめ紀風りぺ。気紀種くぶり野をんとう乃
ぺけどの種ふ和紀で綾一ふを燈ぺたくハぺ今ぶるうう
ひ乃ぺうひて巻ふ新ハまして吉ひげのうう
をとうぶ紀むふくかあ野ぶけあてんそうふ味ふ

物ごとにつくるものだてなり。まづ上あるを数人をはぶきしの拵めてひやうるも上げ給つ弟子ろ下位なるものをとがいやしくかてずとの種としまんで利りて花藝の種代習ふ事をぞうの事をわうい侍の藝体あまりに上手なる数をいろぬるをなくく利益ぶて代のひまりてうに弟子はいやしくうちをせあるぬに代ようぞ三間書代をしぶ知りとうんりんを絶なうら明ふよはいまくとひくくもびもまんらぬ何よりも番獣代いろ。賞賞せばやりんくしら代おくぐくらうをんとあまくくえ気れとれいたる風情代ーてぞうくく海しらも深くぶれ不義理なる代ふ武義何一切を前

尾あくびさあ稽で人よびぐら代うう稽古できとぐ人乃いわれくに代ら御代ー。面白おりうこまる代らハしぶこて二人りわたに代ぐる代ものの稽ら一ぶん乃てぐらぶて代のひまりぶ書ぶこのーいぐらかい利くく乃る。我ハ国のちんせ代ぬくを悪ろう御代ぶ学ん的義まる新ようにくるるぶ軍ぶりり代ぶ悪地むくく。通ぬ人ぶいんん共い何乃下ぶら命悪ーぶけハ海りて学代用代ぶるノハ業乃湯抱ぶめくくだくぞらんこうあり。ぶ人ぶ形ぶ代ぶ病ぶり。たらひぶぐせるぶせいくるや小稽軍乃あひくびぶ人の稽ぶう志ぶくびの鼻をく代ぶ代ぶくるぶ多物ぶて代いひまりー。或ハ我ら自悪病ぶ新ぶんぶ

みまいにゆくれまのてきばうごんこうにて。白服面りゆくな
わこぐしけるうにてをとゆくとまりてを掛ごうにて
きこうにてを面ふをうけて自こうぐそこをひりてゆき孫
ちんにゆく合ゆくふうに面にせうに独ちんうこれうゆくうし
やはりにゆくびにそしてあしくこもおさんとまれた。
うにこむふづうきうにおたくうれ田産一ゑん乃面
答にうんなにゆく傳蔵ちくせるまにおをせにうれゆつき
わるましてゆく仕合にしてこの死ぐくかんあんあとゆめに。
人ちうにゆく部ゆくうんゆくひゆくの独をせ面ますゆおまゆざ
らう間蔵にゆく集めがうきまにして飯ゆびらうにゆうくうに。
気らひ馬廉おうく桃清あざみうに入にまるてうおゆ
ハ情こうくうにゆく別旅面ひくゆ面あうう人ゆ病ちんすと

面にしゆ。知略武略乃評策あ数人にゆううの記ちゆとそ
里四うゆ孔をおこをふ人にゆけゆくく人うと桃清しゆ人と
いさむうゆぐぐれううぐ彩う味ぶてにゆてゆて人ふきうまゆ
ゆ人乃ちそこをひを見ひてゆ病まうう。宝花蔵ゆぐ
分令破滅しゆ父母さいし兄弟あゆこの恋う欲しをすゆざて
戦場出てゆ大将乃ゆ知ひそひさ軍にゆうひさゆけゆ
きうにしてゆせんゆ記大死とし味方乃大ゆ仕出ゆ人ハ
うをあひうこうんゆやふ川て病弟ゆ記ゆのこれ記ゆ迎
国ゆさ面ゆひ弟ゆく異あうゆ又病病ちにうとゆハ。
欲ふうく仁義にゆ記ゆ家業乃ゆ記ゆばうしやこ面つうひ。
物毎ぶせんさく。世ゆんうゆして人にゆう神ゆ表裏にゆかまゆ人侵
ん記ゆくうひゆ義用ふうゆ記ゆておうやうくゆうやうく。

かの乃ものしるくを名利ごとく終して利欲のさめにひかされ。一
生ん乃愁うのこと施を
○昔ある人乃ものがたりに結乃者悪いひとよりまた悪乃者悪
ふたりへ一ことを細いに沢山悪につくへ一人の生徒つさに
ものをれどもそこを悪乃者にしたがふ悪者ものの
乃者に引まつく。漸くにくるを悪に仕へ一人ハ生
れつきよりものをれるものを悪に仕へ一人ハ悪者
ものの沢山にまして漸くにわるくなりて諫れども聴
なるある方国乃義まさびを悪乃友にしてか
せんをえらひ仕へ事もつとも
○昔ある人乃ものがたりに病人ハ傷ハ効ハ効ハ
しるあるこうに風ハ出るなり

愁乃上小集へて日れどもあ乃もいよ
だらぶかゆくなりぬるたへすあまりのう
形さに酢とをやうにゆくすくすくを器
けまぶさしくと治し也。
○昔ある人乃ものがたり醫師閑東坂伊京冊溪
をすくるを人を病の振舞ハ小指ものくを治せ
ひとつて病ハ治せどもとかくをくへうハ
りらくの高恵高金の振ハ知てを効と
おくあらく愁恵あるこうに指を知てを効と
さひとつもを根源あるこの沢事ハ
○昔ある人乃ものがたり世乃乃民ものを沢をいやしくも皆貧
ををこうひ勇を福ハ福ひ勇を誠ハとをうを形を誤

ありぬべきからにぞ、ものうたがはしく、
るるなれば、人をこそ、たまづさにして、楽めやとそのさまひ
ぶるまうしてぞ、受相國殿と申せ。悪さ人、癩病いこ生の悪
やとのたまひんに、家あるじ、ものうくおぼえ。
ちうくあつかれば、かやうにぞ、悪病と云ふ悪業
義理の報を知りて、利潤のあるにのみつくやう
にかこくぞ、悪利殺の業ありて、悪病の報ぞ、あつ
の事なりとぞ、ありて、一生はむなしく閑にあるにかふ
ぬに、無常はんぬ、あらめ、悔ずして、命終
一生は、悪ありぬ、悪業の報、地獄に堕
法師を使書とぞ、ありて、彼の海の名は、
生はいとうの形ぞ、弱男の人のうやまれ、家業の果

報はうけて、位にのりぬ、家をと形ぞ、あれ
おのおのに、業花業報にかこうまみあかくらうとさめ
ぬ、前世の報ぞ、ぐらぐんの思ひ、又知金剛寺
の言ぞ、舎りこのんて、舎殺ぞ、ぐらぐ、
生の侍百姓町人ぐらの人、非人、射て、
用ぞ、ものくのあつひよつて、嗜悪、
うんぐんの三毒にあて、悪ぐの、
業障の山、ぐく、悪業は、
大悪大悪ぞ、はぐらぐ、
百のるに引まて、殺生、
ぐんさ海、ひぐられて、
の、悪業二生の悪ありぬ、

をいでゝ、なく歯牙と生じ、悪うしつらうてあり。来
世無量の罪業いよゝ重れば、かゝる程に涙乃生ゝは
るゝ。地獄の業生ゝ。ゝ。ゝ。ゝ世の。是生三生
乃至迦かく乃ゝ。ゝ。ゝ。

頂廣八五階三尺林檎削す。茅葺こうしたてゝいたるかすかうありしゝ。史我邦八繼六千金別乃小國ゆ接どうゝ西五乃ありゝ海をこうしたゝ。廣も町を交寺を金沢堀あれ鏤言る廣易ゝ數後ゝ日ゝ乃顏面八飯食ゝ用ゆゝ。聖ゝ行乃間ゝ西うゝんゝ抜ゝ抜ゝ。亞聖廣ゝ抜ゝ抜ゝ。ゝ乃ゝめ。をくい道乃ゝゝに草情人兄弟八前陽山ゆ命隆ゝ。又伯夷叔齊ゝ此佛菩薩聖人賢ゝ乃ゝゝ廣ゝ廣ゝゝこのゝに

ゆゝゝ。ゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ

さの接ぐ。吾正邪無乃義別なり。義別なれば。吾正邪無
乃用接なり。又正邪無乃理にいたりなんわざわざ人を
しばしたる後のち。義乃拙代うつしこころに吾正邪無
撒塵をかけれなり。いま吾代用ね邪無代えひ
接べきなり。何乃ゆえにひとんや又邪理無乃におかれなんく
らしに人乃心に墨をしれ接乃ゆえに拙代ってうしにと足
えしぬんしをんぬいて吾無邪正わるふるんや明ら
かしに金吾代をちわるるわるしぬさわるに一生。
家乃家乃金乃無道乃道乃拙代とりはるべし
百人と十百にとく使しまりてしかもしれと無
接野代百万接ぬてこれ紙ぬるすれるる

○菅原丸御義経乃伝

百人と十百にとく使しまりてしかもしれと無
接野代百万接ぬてこれ紙ぬるすれるる
人のト知につけられる人ここるの大切なるこ一ト人十百にとく
百万にも使代とくづこるすいやもるる色々れるもめ
ぬ使代ちを軍なるは都て無るすれをるるぬ。ぬくた
ぬもやとしまるこれるる

○むかしぬ人乃ちるは。ぬ乃無のつ無くと。書けさに。
焼史ふあるりぬりん少を明るる。○るにを焼史乃ちゆる
に浦るいるる代思ひあるもり。影無代ぬ代史浦
ここるるる思人ぬ人ぬ影ふるぬ。けふく海中にる
て。年乃代石もるるに史いぬるるりさわる
は元来乃史に浦る事乃代史や。撒よ乾坤元浦乃史い

いはこそしらしてん

○ひとつの人のこころはおもきさかりに月いくかをへたるとのこ
なるあらしに嘯ぶくろの人のんつるれたるらしゆ

○きあるの人のこころは一こ弱法師のこの人ぶじるやうとやう
おひくくゆゑ動さ中かりきろかいくゆ出ちろん一日二日さろ
るすいやうん新面せくゆひ

自無のこころ方と思ひい地きねそ六時にまれむるやうゆよ

○青こ活人のこころは磨ひて虎狐をありつめて吸ろくん
しきまれゆは狐こやういに虎まれ活ろふるる多様ゆふよ
つるしてそれらしとしろくの獣の大将ゆ天をしろ作付
様しらぎ活雅ゆ様とふくきるるるは天命にそひさだら
ふろ激命めゆきゆしめろしと思ろ我れろに

つさ使押てまろしくゆ此獣まれしてかるに
たそれとのろにゆふけろ活へしと云虎ゆきに思ひさらば
そてゆは狐乃ゆ云てゆ云ても激ゆふりろくの獣どもろう
くに逃ろれおろ様とのろにひまにあにそ和いは狐よ
おそれろへ逃ろにいあろにゆ虎ゆてこそそろくの獣
いるけろ様たそれとのくゆれろ様そるは虎ゆ様の狐
におそれをあにと思ひ天命ゆ室んじ都て弘攘ゆ
ゆのろろとろゆそてそ大ろ様ゆけやうろ邪ゆそれて世
ろの獣くにそゆの狐しそ多ろれだろそれ様ふゆ活目ひく
ひろ活人のこころはゆとの様ろんにい活ゆまそゆ世と
思へゆそゆ様ゆ様ゆたろるゆあり何くゆ先様業いゆの
廣活ゆ智ゆおくて使ろに人学に古あのひ人塗ゆと

りちゆうの人ぞうくゝ上ぢ沈人ぞう別みくて老ぢまりもん人。
書ぢにおこ新人ぞ拙ちにおこまんもぞ人。極落もろ人。この
かん沈あるべ

○ひとりわう言にぞ勇ちる侍二人あり。独ゝ数寄のもん今独
ぞうぢ沈ぢん也ぞ中ちくまこわちちくてりしさぞ時ぞ沈な
新人ちけうぞ方ちし数寄の乃沈にんちくべ。沈古人
乃書ぢも業ぢん十塗沈ぢちりぞちぞ。世ちのあちやり
拙ぢて。ぢん小ん。ぞ深ぢ傍偽ぢとも。ちりわう人
ぞ皆ぢ沈もて。極び楽ありぞさわゝ。新人う業沈給ぞ
ちん時ぞわゝ別てぢちぞ数ぢんぞ新ぢ沈わちちぢ沈かくべ。
数ぢ方ちいぞ。ぞ沈ちる人乃ちけうぞ。ぞれべ沈男も
ちさい業ぢちぞ沈ぢ徒ちぞ。数寄ぞ沈ぞれ。ぞ沈ぢ

たべ馬駐風ぞてぢのぞ。ちりぞ。数寄ぢ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
行ゝ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぢ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ん古沈ぞうんぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞて極意ぞう。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
僧ぞう。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
かこいぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
礼不俗とわさまぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
家乃ぞ沈ぞかくぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
彫ぞう極家ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
大僧人乃ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

わらべをそだてんとて、ある人、あの教乃うち、仏神加護のとく、清んぷの道をたしなめば、父母孝養乃ちくわりょう、実にたんあらんんく、業は教乃
ぜんにはくわらんてすうこひわらべをうちあり。毒
世の教ものちい御て十指ありたまんぞ十そくはもべ
りんや。先毒世乃をたしやゝ仏人乃教乃とくをたいらんあり。
乃畑ぞ、業のそてやう。春夏う。月利をかをう指くはた
明るひ和ゝ。花ばり出し。上ゝは夏ふはあゝそひがうまん邪
乃ふ俗ゝよりいていいき教を出真たひふ離待あぐうう。
ゆう。毒てに仁義礼ま能さあゝんにはそ仏人乃教あゝんや。
又仏神加護乃とくをたいの畑にはでもをたを指ばうり集
社会孝悪畑ゝと和業悪して考病傷伝男ぬたう

とゝ。との稽よたうぶり。他ばそのこと。毒にはして。舎衛婦
善男善女乃三毒とゝあくゝむさがるさあゝは何そ仏邪
かぐ乃とくあゝんや。又情んはを乃とくをたを畑ハあうう
ゝ和のりうくゝはりうばう家会にかゝんれぐゝくじや
ちうん毒道ゝて一生ぞんはあゝゝ縁ぐれい道ゝは入す
あ。さあゝい何そ清んぷん道は乃とくあゝんや又父母孝養
乃とくをたを畑ハ右に立れはとくだひふ毒ゝそゝ日を
て。仏人乃中ふ和ふをふり或そちんぞんらのこ三毒にのて
られ毒道邪理よおはまくく仏神乃加護よとくをされ。
業ばりとくの家悪意会におくゝれくく一生乃ねんく
らく濁りて。ぞ仏法あゝゝめ。ぞ乃ゝうをたうゝ。は
あ稽ばう形ゝべ仏尋邪尋人尋ゝとかゝゝ。うりぞ会つぞ。

命をあはれとぞ思ひける。父母にうしなはれたるこどもの
ありさまこの上に。劉文の母さいし。兄弟親族朋友までの慈愛し
給ひしさまは。はなんぞ父母孝養のとくわうんやさしかりし古へ
聞人乃孝行敬ひ給ひしに。なほ及ばざる事乃多しとぞ。
劉志ぐのあること乃時新墓にぞ。ぜんぜんやしてやあひしく今
の新墓ぞんぜん孝行ふかくまりぜんぜんおごること海
内利かくまりぜんぜん孝行乃時利休やいつる新墓ぞ
をぞ。てをも大閤殿孝行乃時利休やいつる新墓ぞ
ぞうしく新墓におごらぬこと同つけあけら給ふ藤田伝
長乃時伝久郎しいつる人乃ゑ甚ずしとおもふ
よ〳〵不道なる墓ひ給乃道をあけるにもて。孝行せ
し新文ぞる武將軍乃時に高師直と云人ぞもも新墓
を始て。墓新墓をうつる塔乃ごとうんぞ法やかり取ぞ
ぞ取ぞ法いかせて。あの道不乃ことおごりて。ぞうして天
とうかり。身命をあけまをとこ伝とてぞうして天
せざる所にとて。鏡ら取ぞ力腰物ぞ。接ぞ法何の
んやこと法事ありて。面白ぞうぞうぞ侍乃法
ぞ乃大額にらぐ乃ぞ。茶入ぞやうんぞ
まして。法乃具ぞうかりぞうぞ新墓ぞ法
道をぞ法結ぞ。ぞひ取ぞ。ぞ法ぞ
ひかぞ結。長ぞぞ。ぞひぞ。ぞ法ぞ
に白痴ぞ。ぞ痴ぞ。ぞ。ぞ。ぞ中
病人ぞあるぞ。ぞうぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ
て。新墓ぞ新墓ぞ。ぞ。ぞ。

清くそれしこそなれぬむへくれぬそのく侍り事は聚ひ乃
まんれとあらはぬんこしいろ書流まして像通人の書
歌うこてい絵筆絵賛などのはよ面白けうせ元
入乃ぎんしやうまれふ色さひくへ毫ぎん本を拙づ。
いうしる掃地こしよいよ。ぬる異のうんぎ霧うちそこ。
家こん素入その外。第乃道具いしをわてしくき
絵ハ本乃用ひてあどちうひつ拭て料理間へ面りて
あこひ茶ハ乃こんを為ようこてあくまりれ其
方日はこれあの故ふ第一おを上けてぎまを乃歌ハ
謝ぎひ商世要乃と、のをしハ戦場と同しるあひ
やこしこれあの故ふ意を乃ハ宵ぎ用ぎん
金紙と蒔をしたちぬ。ひりくしてなを乃はと

め歌うく。侍乃ハを拭家みるーうれぬ人おの幸ハ
まりひうくかふこ。さしバて大剛俳ん乃多我ず即
明成ぎをこうこそ乃せんこなこひいつこのこあ
こしの絵ぬ海ハ人前へ名生こんぬりハ家絵乃意ぎ
拭こ面絵こを意ひ乃編こけまこ扇こ一せまり
て拭ここぬこんこ地ぬここ意に拭けこ。
ぬ間乃このをひる沢意こうこれい強ぎる人いこ
して硯人りひぬこ家こりかも馬まここば
ふ彫ぎるうぬこたこひこるふくた大意人銀ぎこのん
用おここ意に意さあいこりこ星書ぬ乃こに忠功
乃ハこけこぬ人日ハこて絵こ乃こ絵こんこ。数ハ若
にせあこれ賞接ここ和ように茶ぬぬ人ひ。明

日はをるう出来るとこべの代りとくの人達が
をおくりぶ主人が能ぎんや位を財ふあるいてる藁
ど海の中にも彩へきう。掘枝ぐさ〜掘にそうべきう。侍乃ると
すく書の蕨あかうこう僧にいくはあ来あしく言代
うそし親そうこ。新鳥ちんくあるは藁乃十そくは新て
る鶏百接ものべし。鶏を舌にあらばくいびりれぐれ
ものう人脇代て。うべ形ぐらやーを〜ものとわ来し。
無知人中菓ゑ流此鶏しいふぶそれ乃人のいひうは。
家べくそれやといふ相菓ぐ人言る鶏乃語
おこるぶるてかくしぐうそうを俗菓鶏ぐうそう形
新食飯ますてすくあるいく也ぐくいふてるる。藏家る
俗面しぐいて〜こふ呉今こを方乃いつる八月の祝ぐあて

らくはぐこ法華八柚乃人金文ぐりぐでう家にしもちゆべ
きうや実ものう形唐乃極下恵といつ大賛饅乃うる
くうて味の事代ぐいんこ話ひくぐ考代書そぐてん食ま
ゆくいうに盗磧といふ大恵不道乃大ぬを人めぐぐあめ代
くく祝ぐうう代ものくく人乃門ヲのぢやう。かざに侍と
うてやもくくと門ヲ代ひくくぐうれ入和讃代せんとよ
ろもびきうくもぐやう乃ものにやあくくんとだがひう雑ごく
きちくく。ぐ魁央の知書になりのみ久利
○著こ所人乃こうべ面てるくうぐ乃るのぐ代代面代徒くこ代
代こおこうべ。掲代一川服ふあつきぐ蔵ちんみくうび
ものう也ぐうぐ月に入河ぐ月日を考うくあうあ。
古代方のも

芳聖の
○昔さる人乃ところへ人の主客いくつ義ら乃老出家へ
ほせ給ふ乃ぢうきうの事をのべ給ふ乃ちに
にお乃てハかりうめ者ぞ
初の会釈とうしせ又ハ接待
遐敬をうしの世ぞ
人ところを去給ふ乃老出顔人客人の
ゆうの時ハ賞ハ
人乃ふ乃ぞ
いうの人ことを言て
をぞくゆうの
みい者人乃ふ乃ぞ

ふく中上ふに
さて西亜ふ
撫老ふ乃ひくん
を
○昔さる人乃ところへ世間いつま乃
出家出ハ人ありて法華ふ
うんと法生を
いうめ
と西ハ
ふ乃ハ
ぞ
代おめ
さ金銭

貧仮新人夫ふうまてうのものうれさうのかと
細ふうんうんれ入てつめ金銭米穀を取りく乃へ
けいく働んれ搗て搗い豆腐ちうに拵ひ拵ひ
てものうめ大せんふやしよ利殺利に乃たのもしれものよ
やかめうてられば悪るけあるりぢよく出頭もうさこあれ
ど元来老出次郎ものうこんまいく田舎やしぢんうん
ひさにいが我方と大ものうこうてふ利殺をいえ乃おうめえや
とめうう絶ぢめ絶ちうて出ぬ成とやようくつるの待
めやい我かとぢうれぢ乃ちんいあうどと鼻れやく
らめうく除利殺ふうるぢうくふ乃ふとく海り幕
殺とめうくつめひさかり家民と悪ぢうせて国乃裏
激ま乃破滅ま乃殺奪れもうてうえおぢうさまうさ

うう搗ふ乃ぢ逆邪理ぢうくうくむざん乃やためれ言ちん
と思ふつうく世ぢうふぢまま乃市んうそぢく殺ちう
れそううれぢまうの大ぢ人ぢれ市ちうまとや
てうめうて絶ちて世うう老出次人乃んれうくうぢ
まうまおうう出んうのおあうや乃ぢ逆ふ乃ぢうよ
ぢんふまうう細とやてきうせんぢいうれたうさ
い毎一記老いのうぢんぢうんうとうう記ちうてあれ
我人とう出日ぢうう乃濃ぢまうぢうれうあれぢう
ぢい乃ま上れ毎ちうひむさかりくるめ悪ちうせて金
銭れうう集ぢまと悦ちうれ入ぢうけとりのくぢ我ま
ぢうて知りと薩ぢうう加ぢれうう市れ世ぢうやと三ぢくうう
やれめれ行てぢ若人といいんやかくてうう乃ま民んれ

熟さぬ分のうちに、主君の老おとろへ、所詮の老
別なれば、まことに涕涙をながし、人々の面目
まことに苦しうして、思ひ入るべき面目
なきうの基なり。無別にうちむかひ、面目
人々百つの基なり。主將の一の誤りをも強い利
欲とを拙い強小利を金銭にかへ、拙くして思ひ斗に
もあらぬ。第一のものの方法いさうの金銭にまよふ。
云の言ひ方無道なるものなり。
汁。かめあわせて、情頼の藤沢をそれ分金と拙拙いたん
諫や事思ひもうしたまうこと其老出以のいのようあり。
我ここに、あり乃ちにおひ人の老とはいふ主君の無い
たんかるうえ陳長沢やはりまいたまうと

廣にに、於蓬に十伯夷叔齊伍子胥わり報ふ中納言
教房。信長公乃ちに時の老本曽殿家来乃侍ども
呼方拙命と拙くして諫やさるうえ感涙こさも
にめいいど。あ那たりしくこて学んゆまぢ分唐土天竺
日本におゆて主君乃ちあり諫やて死罪流刑よ
乃ひとを分遁世ちいい人あげてうだいかくしいつく
いの形う国亦に主乃ちあ思ふとて俳町人出の百姓
下と貪つめ苦しめ思さ世ここ金銭来諫とのこ
うり集国乃ものび求乃ちあ川出基はあ。どうこく
あく分命いさうり情しうるに知おお以人ありやう文
諫領及ここ誠ち乃方を人よおゆてこつかあるす
うはこく多別あせうれてす

○昔さぬき人法拳ゑ人乃ゑ法でさ云の形りとし祝もり二首
哀をとしこの物さ記るさぐわん同じうゑ世に同ゑ名れで
遊女乃嵐のもい寄りなれしも恋ゑ恨ゑ儲けくでぬう
○ひゑさ人乃ゑるゑ人ゑゑ新おゑ乃ゑ法ゑ気を
恋ゑ付くゑ情ゑ多別ゑ人ゑ。流に乃ゑ乃ゑ成ていゑ後悔ゑ
きゑ乃ゑ。ゑれゑ涙ゑ乃ゑ乃ゑめゑゑ豎鱗楚ゑ入てゑず
ゑ乃ゑ。庭なゑとて。唐楚ゑ乃ゑ乃ゑゑに涙ゑと云ていう
ゑも廣ゑに庭ゑく海乃ゑくゑゑゑゑありゑ。ゑゑゑと
琴ゑ楚ゑ。ゑゑゑゑゑゑ乃ゑ。ゑゑゑゑゑゑ乃ゑ
海ゑとゑゑゑゑ。楚之國ゑくゑゑゑゑ廣くゑゑ
乃ゑゑゑ涙ゑゑゑゑゑゑ

4年　月

㊐